

西田 みなさんこんにちは。連合奈良の西田です。いつも YouTube チャンネル
をご覧いただきありがとうございます。今日のゲストは大きな決断をさ
れたこの方です。どうぞ。

上田 どうもみなさんこんにちは。橿原市の上田邦芳（うえだ くによし）と申
します。どうぞよろしく申し上げます。

西田 連合奈良の中で北和、西和、中和、南和と4つに分かれた地域協議会とい
うのがありまして、一番南にあります南和地域協議会の議長をしていた
だいています、上田邦芳さんです。もとは橿原市役所で勤務をされていて
職員労働組合の委員長もされておりました。今日は青いネクタイ（イメー
ジカラー）をしていただいています。来年行われます橿原市の市議会議員
選挙に大きな挑戦をされる決意をされました。これまで自治体で働かれ
てきて、なぜそういった決断をされたのかお聞かせいただきたいと思
います。

上田 私自身の祖父が御所市長をさせていただいていました。もう50年も前の
ことになるのですが、その祖父に対する憧れを子どもながらに抱いてい
たことと祖父が労働組合の運動とともに政治の機会を得たということ
後になって知り、自分自身も組合の活動をやってきて、チャンスがあれば
ぜひ組合活動の延長線上に政治の場で政策に取り組ませてもらいたいと

ということで今回の決意に至ったということなのです。

西田 憧れていたお祖父さんの生きざまの影響を受けたということなのですね。

上田 私自身市役所に 22 年間勤めさせていただき、その間に当然就職をする、結婚をする、住まいを橿原市で構える。その後子どもの出産を経て子育てにたずさわり、子どもが学校に通うようになって地域の活動や PTA の活動なんかに参加をしてきた。同時に連合奈良の活動にも参加する機会をいただき、活動を通じて地域に対し政策提言していく、そのようなことで地域とのかかわりをはじめて強く持つようになりました。その一定の経験や体験をもとに政策について提言できるチャンスではないかと思ったところです。

西田 橿原市の中でいいところ悪いところ、こういったことをやるべきだというような施策についてはありますか。

上田 やりたいことをみなさんに伝え、共感を持ってもらわないといけないと思いました。自分の訴えたいことの中で、体験に基づくものに絞り込んで主要な政策にしよう。その中で三つの柱を立てています。まずは橿原市の将来、未来をつくっていく子どもたちが健やかに育まれるような環境をつくりたい。そして団塊の世代と言われる方々が後期高齢者となられる時期を今後迎えるわけですが、ご高齢になられた方がいつまでもや

りがある、生きがいを持った地域の暮らしが営まれるための政策を実現をしたい。それとともに櫃原市自体、中南和の拠点でもありインフラ整備、公共施設の整備が進んでいますが、費用が非常に大きくなっており、やはり人に対する投資が十分ではないと感じていましたので、人を大切に
する政策を打ちたいなと思っています。

西田 行政の中で20年仕事をされてきたということは本当に大きな経験になる
と思いますし、行政の仕組みなどはよくご存じなので、即戦力になられる
のではないかと思います。今年に入ってからコロナの感染拡大がなかなか収束しない中で、国の施策、県の施策、市町村の施策、櫃原市も含めた市町村がいろんな対策を打たれてきましたがその対策についてどのようにお考えですか。

上田 やはりこの未曾有の事態が生じて多くの方が社会的に弱い立場である
ということを実感したと思うのです。櫃原市においては事業者の方への支
援というのは一定程度さまざまに政策が打たれました。家賃補助なども
含め追加的な支援もあったのですが、実際に働いておられる方々や生活
されている方々に対して支えていく、勇気づけていくような手当は十分
ではない。新型コロナウイルスの感染を予防することと同時に季節性の
インフルエンザの流行を抑える。無償でこのワクチン接種ができるよう

にといった政策は市町村で行う必要がありますので、ぜひ取り組むべきではないかなということを感じています。

西田 何かあった時に市民、県民、国民を守るという意味においては、市役所で働かれていたことからして感じることはありますか。

上田 たとえばこの間、子どもさんをお持ちのご家庭ではご苦労がおありだろうということで学校の給食費を3か月間無償にしようとか6か月間無償にしようとか言われてきましたが、将来を支える子どもたちの給食費を例えば社会全体で支えようという判断ができれば最初から集める必要もありません。給食費を無償にしようということも訴えていきたいと思っています。いろんな自治体で研究や検討されていますが、私学だったらどうなるのか、給食の設備がないところはどうなるのかなど、難しい面はあろうかと思いますが、そういったことは必要なのではないかなと思っています。

西田 環境整備や自治体で働いているみなさん、自治体に関係する民間で働いているみなさんたちのあり様なども、長年働かれてきたことを活かしていただければと思います。特にこれだけは成し遂げたいというようなものはありますか？

上田 一番の問題が少子化の問題であるという認識を持っています。やはり子

どもさんを授かった後も働き続け、ご自身の生活を生計していくことが両立されなければ、当然そのご家庭の中で2人目、3人目ということになってきません。子どもが生まれた後にいかに充実した生活が送れるのか、社会の支えを受けながらご自身の価値を満たしていくことができるのかということが重要だと思っています。私自身も檀原市役所の勤めの時に初めて男性で育児休業の取得をさせていただいたのです。それをきっかけに保育所に0歳の4月から6年間子どもを預けたのですが、子どもの送り迎えをすることができた。育休の経験が家庭の役割の中で自分のものになったということが大きかった。コロナで医療的な支援というものがいかに必要なのかということを実感したわけですが、安心して子どもさんを病院連れて行ってあげるために、医療費の無償化、完全な無償化、自己負担ゼロでいけるのではないかと。

西田 就学前までですか、就学後もですか。

上田 これは小学校、中学校までです。かつては病院が無料になればコンビニ受診だというようなことが言われ、医療費が膨大にかさむのではないかと議論もありました。しかし子どもを育てることに対する支援としては必要です。子どもを病院へ連れて行くのには親の付き添いは必ず必要ですから医療費が無料になったからといって無秩序な受診が増えるとい

うことはないだろうという研究の成果も出ていますので、手当てをする自治体は全国にかなり広がっています。県内では非常に少数ですので、檀原市が取り組むべきだろうと考えています。

西田 上田さんがなぜ政治家をめざされたのか、また自治体での経験、ご自身の私生活での経験、また連合という労働組合の中で活動されてきた中でいろんな社会との接点があって政策を変えていきたい、職員ではなかなか提案しきれない部分を政治家としてやっていきたいということをお聞きしました。一丁目一番地はやはり少子化対策なんだと、お話を聞いていて思いました。まだ、たくさんお話したいこともあるかと思いますが、またどこかの機会でお聞きしたいと思います。今日は本当にありがとうございました。

上田 ありがとうございました。